

「内視鏡外科用語集」

日本内視鏡外科学会用語委員会 編集

東北公済病院院長

森 昌 造

1987年にMouretが腹腔鏡下胆嚢摘出術に成功して以来、内視鏡下手術は、低侵襲性による患者のQOLの向上という利点によって、瞬く間に世界中に普及した。わが国においては1990年に、「内視鏡下外科手術研究会」が発足したが、1995年には「日本内視鏡外科学会」へと発展し、消化器外科、胸部外科、内分泌外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、形成外科などの多領域で、数多くの手術が内視鏡下手術として行われるようになり、更に適応が拡大されつつある。この急激な発展は、機器の開発と技術の進歩によって支えられたものであるが、一方では、機器や技術に関する外来語があふれ、誤って解釈されたりあるいは奇異な造語や略語が出てきたりというような混乱も生じるようになった。

このような状況下で、1999年5月に、日本内視鏡外科学会用語委員会(山川達郎委員長)編集による「内視鏡外科用語集」が医学書院から発行されたことは、誠に時宜を得たものと喜んでいる。

山川委員長は本書の序の中で、編

集の基本方針について、①氾濫する用語の整理、②内視鏡外科関係の和文および英語の論文を書くのに役立つ用語集にすること、③日本語に主体を置き、それに対応する英語を付記する方式をとること、および④誤解されやすい用語や混乱の恐れのある用語、複数の訳語がある用語などについては註をつけて説明すること、と述べている。これまで各学会などから様々な用語集が出版されてきたが、いずれも文字どおり用語の説明であり、有用ではあるものの無味乾燥であることはやむを得ないものと思っていた。したがって、上記の“論文を書くのに役立つ用語集”というような編集委員会のポリシーは大変新鮮で、英文論文を書くのに多少なりとも悩んだことのある者にとっては、わが意を得たりという思いがするのである。

本書は、1. 手術手技用語、2. 手術器具用語、3. 手術所見記載に必要な用語、4. 手術診断に関する用語、5. 内視鏡外科手術に必要な解剖用語、および和文と欧文の索引から構成された244頁の小冊子である

が、前述の編集方針に貫かれた内容となっている。また、左頁に和文・英文の用語のスタンダードを示し、右頁にはそれらの用語の使い方や類語に関する註を記載するというユニークで親切的な編集がなされているのも特徴の1つとなっている。

内視鏡下手術の習得は、今や多くの外科系医師にとって必須のものとなりつつあるが、そのような医師の手許にぜひ置きたい1冊として、本書を推薦したい。

この用語集の編集にあたっては、多岐にわたる領域の専門家の協同作業が必要で、ご苦勞も少なくなかったことと思うが、3年近くの年月をかけて本書を完成させた用語委員の方々に敬意を表したい。

日進月歩のこの領域であるので、かなり早い時期での本書の改訂は必至のことであろう。用語委員会の今後のご尽力を切に願う次第である。

●B6 頁248 図1 表3 1999
定価(本体3,500円+税) 円400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)